新春伝承あそびまつり

1月26日、領家第9公園で開催。子どもたちは竹馬や皿回し、はねつき、ジャンボかるたなどのお正月遊びをプレイリーダーと一緒に楽しみました。

KAWAGUCHI PUBLICITY

拉致問題を考える川口の集い

1月26日、フレンディアで開催。350人の参加者は一日も早い拉致問題の全面解決に向けて、この問題を決して風化させない思いを新たにしていました。

川口市体育三賞授与式

1月31日、リリアで開催。永年にわたり地域スポーツの振興に寄与された功労者や、全国大会などで優秀な成績を収めた選手・団体に、川口市体育賞・大野元美記念体育賞・押田記念体育賞の各賞が贈られました。

奥ノ木市長初登庁

2月9日に投開票が行われた川口市長選挙で初当選を果たした奥ノ木市長が2月10日朝、多くの市民や職員など約200人が出迎える中、初登庁しました。

2月8日川口1付近

2月15日市役所本庁舎前

2週連続の大雪

南岸低気圧の影響による大雪は、2月8日に10センチを超える積雪、14日から15日にかけてはそれを上回る積雪となり、2週連続の記録的大雪に見舞われました。

COMMUNITY マイシティ✦かわぐち MYCITY

ひと・歴史・かわぐち Vol. 14

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます。

川口鋳物師、国防を支える

増田安次郎

今回は、幕末の日本では製作不可能とされた高性能洋式大砲を鋳造し、国防の近代化を支えた増田安次郎をご紹介します。

幕末の嘉永6年（1853）、ペリー率いる4隻の米艦隊が浦賀沖に来航します。いわゆる黒船の来航です。これを契機に、幕府は鎖国から開国へと180度方針転換する一方、外国人を実力で排斥する攘夷思想が台頭し、各藩の軍備の近代化も一気に進みます。特に四方を海に囲まれた我が国は、海岸線を守る高性能の洋式大砲が不可欠でした。求められたのは長い射程と命中精度。その困難な要求に応えた日本屈指の技術者が、川口鋳物師増田安次郎なのです。

安次郎は先代から受け継いだ技術と、圧倒的な探求心で、当時の国内水準を超える技術力を磨きました。前月号でご紹介した幕府講武所砲術師範役高島秋帆の褒状に安次郎の卓越性が表されています。安次郎は、大砲をはじめ最新式の銃も全国から受注し鋳造しました。

フランス・アンヴァリッド（廃兵院）軍事博物館には当時の大砲が保存されています。文久3年（1863）、長州藩が下関海峡で英・仏・蘭・米4カ国の船を砲撃した四国艦隊下関砲撃事件の際、仏軍が長州藩からの戦利品とした青銅砲。長州藩の家紋とともに刻まれた「十八封度砲 嘉永七年春於江都葛飾別処墅鋳之」との銘から、安次郎の技術指南による鋳造品とわかりました。今も異国の地で、工業近代化の黎明期に保有した、わが国鋳物師たちの技術力を伝えています。

安次郎が築いた川口鋳物の信頼は、明治の近代化を経て今日まで続く工業都市川口の発展に大きく貢献するのです。

参考文献：『川口市史』近世資料編ii、1986、川口市

全長3.5メートル、口径15センチ、重さ3トン、射程距離2,500メートルを誇る18ポンドカノン砲の複製。
嘉永5年（1852）、津軽藩の依頼を受けた安次郎が、高島秋帆と協力して製作した。
鋳造：富和鋳造(株)　所在地：本町1-12-24 増幸産業(株)